

岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科

教育職員免許法施行規則

(昭和二十九年十月二十七日文部省令第二十六号)

第二十二條の六 認定課程を有する大学は、次に掲げる教員の養成の状況についての情報を公表するものとする。

- 一 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること。

岡山学院大学の建学の精神「教育三綱領」は、

自律創生: 道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹: 目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄: 社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

であり、教育理念は、21世紀の我が国の少子高齢化の時代において、15歳から65歳までの生産年齢人口の縮小を抑止するために、国民一人一人の健康維持及び増進をはかり、我が国の労働生産力の向上に寄与する人材を本学の「人間教育」と免許・資格を取得する「技術・技能教育」をもって育成することである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、管理栄養士養成の教育目標を達成することを使命とする。

人間生活学部食物栄養学科の教育目標

人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得し、QOL 向上のための栄養の指導を行う専門家を育成する。

4年間じっくり学ぶことで、栄養士免許を取得するとともに、管理栄養士の国家試験受験資格を得る。管理栄養士とは、「人」の健康の維持増進をはかるための栄養の指導に携わる専門家である。高齢化が進むこれからの社会にあってはチーム医療のスタッフとして大いに期待され、また、食品技術系の企業においても、管理栄養士に人材ニーズが高まっている。更に、食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し、食生活の多様化が進む中で、朝食をとらないなど子どもの食生活の乱れが指摘されており、子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、栄養や食事のとり方などについて正しい知識に基づいて自ら判断し、食をコントロールしていく「食の自己管理能力」や「望ましい食習慣」を子どもたちに身につけさせることが必要となっている。このため、食物栄養学科では将来、こうした管理栄養士に成長できる実力を育てるために次の教育目標を掲げている。

- 生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成
- 疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成
- 豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成
- 人材ニーズが高まっている食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成
- 食に関する指導（学校における食育）の推進に中核的な役割を担う栄養教諭を養成す

る。

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基、自律した信念のある社会人となることである。

I. 専門的学習成果

学科の専門学習では、現場に即応する管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、①多様な専門領域に関する基本となる専門的知識、②チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力、③公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力、④健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。

II. 汎用的学習成果

また、学習支援を行う教員とのコミュニケーションをとおして、①栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解でき、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解できる力、②職業生活や社会生活に必要な数量的スキルや情報リテラシー、③職業生活や社会生活でも必要なチームワーク、リーダーシップ、コミュニケーションの能力として自己表現力、論理的思考力、問題解決力、他者理解力、④社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理能力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位:学士(栄養学)

現場に即応できる管理栄養士になるため、基礎教養科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

1. 学位授与に必要な単位を修得している。
2. 卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度(心構え)や職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得している。

教育課程編成・実施の方針

コアカリキュラムとサブカリキュラムを編成実施する。

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための科目をコアカリキュラムに編成する。

また、同時に「食品衛生資格履修コース」をコアカリキュラムの中に科目指定する。

特に授業においては、科目の専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果も獲得できるように実施する。

更に、希望者に対して、栄養教諭一種免許状、フードスペシャリスト資格認定証、専門フ

ードスペシャリスト資格認定証、図書館司書、社会教育主事任用資格などが取得できるサブカリキュラムも編成し、実施する。

また、汎用的学習成果の獲得を支援する基礎教養科目も編成し、実施する。

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・管理栄養士の仕事を理解している。
- ・卒業後、管理栄養士として職業に就く。
- ・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

二 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関する事。

【栄養に係る教育に関する科目】

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		担当教員	履修方法等
			必	選		
栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	学校栄養指導論Ⅰ	2		井上恵子講師	
	幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項					
	食生活に関する歴史的及び文化的事項					
	食に関する指導の方法に関する事項	学校栄養指導論Ⅱ	2	(井上恵子講師)		
●単位数	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む） ・教員の免許状取得のための選択科目 				4単位	0単位

【教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目】

免許状の種類	免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目			担当教員 (非):非常勤
	科目	単位数	授業科目		単位数	
			必修	選択		
栄養一種免	日本国憲法	2	日本国憲法		2	近 勝彦 (非)
	体育	2	体育実技 体育理論		1 1	西谷光正 (非) (西谷光正)
	外国語コミュニケーション	2	英語Ⅰ 英語Ⅱ		2 2	濱田佐保子教授 (兼担) (濱田佐保子教授)
	情報機器の操作	2	情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ		2 2	(正司和彦教授) (正司和彦教授)

【栄・教育の基礎的理解に関する科目等】

科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数		共通開設	担当教員	履修方法等
				必	選			
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理	2			福野裕美准教授	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教師論	2			（福野裕美准教授）	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度論	1			（福野裕美准教授）	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2			（大賀恵子准教授）	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援の方法と理解	1			（大賀恵子准教授）	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	1			（福野裕美准教授）	
	道徳、総合的な学習の時間に関する科目		道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳・特別活動・総合的な学習の時間	2		
教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法及び技術（A）	1				正司和彦教授		
生徒指導の理論及び方法	教育の方法及び技術（B）		1			（正司和彦教授）		
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	生徒指導論	2				（浦上博文教授）		
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	事前・事後指導	1			（井上恵子講師）	
			栄養教育実習	1			（井上恵子講師）	
	教職実践演習	2	教職実践演習（栄養教諭）	2			（中原真由美講師）	
●単位数		・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む）		21単位	●専任教員数（合計）		2人	
		・教員の免許状取得のための選択科目		2単位	●必要専任教員数		2人	

各教員が有する学位及び業績

教員名	正司和彦	学位	工学博士	職名	教授
担当科目	情報リテラシーⅠⅡ、教育の方法及び技術（A）（B）、図書館情報技術論、社会教育演習（情報検索演習）				
専門分野	教育工学、情報処理				
最終学歴	昭和46年3月	大阪大学大学院工学研究科博士課程(電気工学専攻) 単位修得満期退学			
これまでの主な経歴	昭和46年4月 55年5月 55年8月 56年1月 平成1年4月 5年4月 7年8月 14年4月 17年4月 19年3月 19年4月 20年4月 22年4月	大阪大学工学部助手（昭和55年4月まで） 兵庫教育大学学校教育研究センター助教授（平成1年3月まで） 大学設置審議会教員組織審査において兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程助教授(兼担)（計算機応用論，教育工学基礎論，情報処理演習，課題研究担当）M可と判定 大学設置審議会教員組織審査において兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程助教授(兼担)（情報処理論，同演習担当）M可と判定 兵庫教育大学学校教育研究センター教授（平成5年3月まで） 兵庫教育大学学校教育学部教授（平成17年3月まで） 大学設置審議会教員組織審査において兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士課程教授(教育工学・教育情報学特別研究，課題研究担当)D○合と判定 兵庫教育大学情報処理センター長(兼任)（平成19年3月まで） 兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授（学習環境システム開発論，教育課程と教授・学習理論，情報教育法特論Ⅰ，課題研究担当）（平成19年3月まで） 兵庫教育大学定年退職 兵庫教育大学名誉教授（現在に至る） 新潟総合学院通信制大学設置準備室職員（平成20年3月まで） 岡山短期大学幼児教育学科特別専任教授（平成22年3月まで） 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任教授（現在に至る）			
これまでの主な研究業績	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教師のための情報教育入門講座 一高等学校編一 2 総合的な学習の時間の理論と実践 情報編 3 インターネット時代の教育情報工学2 ニュー・テクノロジー編 4 情報と職業 5 情報教育の学習評価 6 最新モデル化とシミュレーション <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 非線形制御系の周波数領域における安定条件とその応用に関する研究(博士学位論文) 2 マルチメディアシステムにおけるオーサリングツールと教材構築法 3 ハイパーメディアを利用した授業の設計と展開の方法 4 接続関係による動的リンク機構を有するハイパーメディア教材オーサリングツールについて 5 ハイパーメディア教材における動的リンク機構のネットワークングについて 6 教師教育のための遠隔学習システムについて 7 コミュニケーション活動を促す学習ネットワークへの接続関係の応用 8 マルチメディアネットワーク学習環境の構築と教科オーサリング法 9 高等学校普通教科「情報」の実施に関わる現職教員の意識調査 10 話し合いを支援するネットワーク学習環境の開発と授業実践 11 学習の振り返りを支援する電子ポートフォリオシステムの開発とその利用による授業実践 12 仮想空間を利用した障害児と健常児の相互理解を深める交流実践 13 モデリング学習における高等学校物理Ⅱ課題研究の単元開発と実践 14 Web上の相互添削とリンク埋め込み型日英コーパスを利用する総合的ライティングシステムの開発 15 電子メール経験のポートフォリオ化による情報モラル育成のための学習支援システム開発に向けた授業実践 16 課題解決型学習のための授業展開とWeb-DB連携による学習用電子ポートフォリオシステムの開発 17 モデリングとシミュレーションを導入した工業実験・実習の授業改善 18 小学生を対象としたメッセージ推敲のための適応型キーワード提示 				

	19 ブログを利用した情報発信学習における生徒による情報分類の変化 20 子どもの発達と認知に即した授業設計と実践について
学会及び社会における活動等	日本教育実践学会会員（現在に至る）

教員名	福野裕美	学位	修士（教育学）	職名	准教授
-----	------	----	---------	----	-----

担当科目	教育原理、教育課程総論、社会教育計画、生涯学習概論、教育制度論、教育課程論 教師論、生涯学習概論、社会教育行政、保育内容総論、教職実践演習	
専門分野	教育学	
最終学歴	平成 23 年 3 月	筑波大学大学院博士後期課程人間総合科学研究科教育基礎学専攻単 位取得退学
これまでの主な 経歴	平成 19 年 4 月 平成 20 年 8 月 平成 21 年 2 月 平成 22 年 4 月 平成 23 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 30 年 4 月	ティーチング・アシスタント（筑波大学）（平成 23 年 3 月まで） リサーチ・アシスタント（筑波大学）（平成 20 年 12 月まで） 土浦協同病院附属看護専門学校 非常勤講師 担当科目「教育学」（平 成 23 年 3 月まで） 日本学術振興会特別研究員（DC2）（平成 23 年 3 月まで） 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 助教 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 講師（平成 30 年 3 月まで） 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 准教授（現在に至る）
これまでの主な 研究業績	<p>（著書）</p> <ol style="list-style-type: none"> 『要説 教育制度 新訂第二版』 『講座 日本の高校教育』 『認知的個性 違いが活きる学びと支援』 『要説 教育制度 新訂第三版』 『現代教育制度改革への提言/上』 <p>（学術論文）</p> <ol style="list-style-type: none"> 「学業優秀者支援施策におけるアクセス拡大の取り組みに関する一考察—米国カリフォルニア州のアドバンスト・プレイズメント・プログラムを事例として—」（修士論文） 「米国アドバンスト・プレイズメント・プログラムにおけるアクセス拡大に関する一考察—全米レベルの取り組みに焦点をあてて—」 「米国カリフォルニア州のアドバンスト・プレイズメント・プログラムにおけるアクセス拡大の取り組みと課題」 「米国 Advancement Via Individual Determination プログラムの起源に関する考察」 「平成 29 年改訂学習指導要領と階層間格差の問題—教育課程企画特別部会の議論に焦点をあてて—」 米国 AVID プログラムの実態の解明—カリフォルニア州サンディエゴ市のサン・インドロ高校を事例として—」（査読付） <p>（その他）</p> <p>〈依頼原稿〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 「不利な状況にある生徒のための大学進学準備システム—米国の AVID プログラム—」（学会発表） 「米国カリフォルニア州における AP プログラムのアクセス拡大施策の特質と課題—州教育委員会・学区教育委員会・学校の取り組みに着目して—」 「米国アドバンスト・プレイズメント（AP）プログラムのアクセス拡大の支援方策—大学進学準備プログラム（AVID Program）の内容に着目して—」 「イラン映画を通して考える教育制度の問題」 「米国 AVID プログラムの特質と課題—カリフォルニア州サンディエゴ地区のサン・インドロ高校を事例として—」 「米国の不利な状況にある生徒を対象とした大学進学支援策の成立過程」 	
学会及び社会における活動等	日本教育制度学会 大学教育学会 筑波大学教育学会 日本教育学会、 アメリカ教育史研究会 日本比較教育学会	

教員名	井上恵子	学位等	準学士 管理栄養士免許 栄養教諭一種免許	職名	講師
-----	------	-----	----------------------------	----	----

担当科目	学校栄養指導論ⅠⅡ、事前事後、栄養教育実習、教職実践演習				
専門分野	栄養学				
最終学歴	昭和 51 年 3 月	岐阜市立女子短期大学 食物栄養学科 卒業			
これまでの主な経歴	昭和 51 年 4 月 昭和 53 年 4 月 平成 元年 4 月 平成 7 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 20 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 26 年 4 月 平成 28 年 4 月	(株)東京集団給食技術研究所(名古屋市)勤務(栄養士) 倉敷市役所 衛生局福祉部老人福祉課 養護老人ホーム倉敷市光風荘 勤務(栄養士) 倉敷市立帯江小学校 勤務(栄養技師) 倉敷市立万寿小学校 勤務(栄養技師) 倉敷市立天城小学校 勤務(栄養技師) 倉敷市立味野小学校 勤務(主任) 倉敷市立北学校給食共同調理場 勤務(主任) 倉敷市立庄学校給食共同調理場 勤務(主任)(平成 26 年 3 月まで) 倉敷市立沙美小学校・倉敷市立富田小学校新規採用学校栄養職員指導員(倉敷市教育委員会非常勤講師)(平成 27 年 3 月まで) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任講師(現在に至る)			
これまでの主な研究業績	(著書) 1.学校給食参考献立集(第22集) 2.学校給食参考献立集(第24集) 3.学校給食参考献立集(第26集) (報告書) 1.児童生徒の食生活日常生活習慣等の調査報告書				
学会及び社会における活動等	日本栄養改善学会 日本栄養士会会長表彰日本栄養士会の発展と国民栄養改善の進展に尽力 倉敷市有効者表彰倉敷市自治行政に貢献 学校給食関係功労者表彰多年にわたり学校給食の振興に多大な功績があった者				

教員名	中原眞由美	学位等	準学士 管理栄養士免許 栄養教諭一種免許	職名	講師
-----	-------	-----	----------------------------	----	----

担当科目	調理学ⅠⅡ、調理学実習ⅠⅡ、フードコーディネート論、教職実践演習、卒業研究Ⅰ				
専門分野	調理学、栄養学				
最終学歴	昭和 52 年 3 月	島根県立島根女子短期大学 家政科 食物専攻 卒業			
これまでの主な経歴	昭和 52 年 4 月 昭和 53 年 9 月 昭和 54 年 2 月 昭和 54 年 4 月 昭和 62 年 4 月 平成 8 年 4 月 平成 15 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 21 年 4 月 平成 24 年 4 月	株式会社 栄養士 倉敷市立下津井中学校 臨時栄養士 倉敷市立児島中学校 臨時教諭(家庭科) 倉敷市立郷内小学校 栄養技師(食数1100) 倉敷市立連島南小学校 栄養技師(食数1300) 倉敷市立富田小学校 栄養技師(食数450) 倉敷市立茶屋町小学校 栄養技師(食数1250) 倉敷市立連島東小学校 栄養技師(食数750) 倉敷市保健所 生活衛生課 食品監視係長 食品衛生監視員 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 講師(現在に至る)			
これまでの主な業績	(著書) 1. 地場産物利用推進モデル校実践のまとめ 2. 学校給食における食物アレルギー対応の手引(学術論文) 1. SATシステムを使った献立作成スキルアップの活用法について 2. 本学学生およびその家族における、年中行事の認知状況と行事食の認知・経験状況の解析 3. 本学学生の家庭における雑煮の実態調査 4. 大学生の料理(食品)重量把握学習の取り組みの研究 調理学実習における目測推定トレーニングの効果の検討				

	<p>5. 学生主体で行う調理講習会における学生の能力向上への取り組みと検証 (その他)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般向け講習会(子育てカレッジ等)における料理教室の開催運営 2. 郷土料理の研究・開発(学生の卒業研究の題材) 3. 地産地消給食推進指定校に任命される。 4. 小学校教育研究会で倉敷東地区の研究授業公開 5. 夏期研修会で地産地消の取り組みの講演 6. ドライシステム調理場の衛生研究会の実施指定校 7. 家庭科の授業への専科教職員とのT.T授業の推進 8. 食品衛生責任者の講習会の講師 9. 出前講座の講師 10. 集団給食栄養士へ現場立ち入り時の衛生指導 11 保護者への給食の説明 12 食に関する指導の実施 13 FM おかやまに出演 14 栄養士臨地実習の受入 15 給食時間の放送 16 ノロウイルスについての講習会(幼児教育)
学会及び社会における活動等	<p>日本栄養士会会員(現在に至る) 岡山県栄養士会会員(現在に至る) 調理科学会会員(現在に至る) 日本栄養改善学会会員(現在に至る) 岡山県栄養士会理事(現在に至る)</p>

本学併設の岡山短期大学からの兼担教員

教員名	浦上博文	学位	教育学修士	職名	教授
担当科目	国語、言葉(保育内容)、教職実践演習、卒業予備研究(B)、卒業研究(A)(B)				
専門分野	国語				
最終学歴	昭和58年3月	岡山大学大学院教育学研究科修士課程(国語教育専攻)修了			
これまでの主な経歴	昭和52年4月	岡山県倉敷市立工業高等学校常勤講師(国語科担当)(昭和53年3月まで)			
	昭和53年4月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教諭(国語科担当)(昭和56年3月まで)			
	昭和56年4月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校非常勤講師(国語科担当)(昭和57年3月まで)			
	昭和57年4月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教諭(国語科担当)(平成16年3月まで)			
	平成8年4月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校国語科主任(平成16年3月まで)			
	平成13年4月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教務部副部長(平成16年3月まで)			
	平成16年4月	岡山短期大学幼児教育学科専任助教授(平成19年3月まで)			
	平成16年4月	岡山学院大学人間生活学部非常勤講師(現在に至る)			
	平成19年4月	岡山短期大学幼児教育学科専任教授(現在に至る)			
	平成24年4月	岡山短期大学幼児教育学科主任教授(平成28年3月まで)			
これまでの主な研究業績	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師のための表現分析の手引 2. 文章を作る過程の指導(学術論文) <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 説明の文章を作る言語行為の指導に関する研究①高等学校2年生の場合 2. 説明の文章を作る言語行為の指導に関する研究②高等学校2年生の場合 3. 文章の作成過程を指導する教材 昭和37年版・47年版・56年版中学校教科書 教材の比較 4. 作文指導における教材の拡充 				

	<p>中学校2年生、意見文作成の場合に即して</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 「文章の作成過程」と「言語表現の基礎」とを重視した指導第2学年の場合 6. 「持込み詞」による連文表現の基礎指導高等学校2年生の場合 7. 「説明、記録・報告の文章」の「文章構成の型」に関する調査 昭和59年版中学校教科書教材における 8. 「読書案内」作成の指導 9. 「評論・論説の文章」の「文章構成の型」に関する調査 昭和59年版中学校教科書教材における 10. 説明の文章を作成する指導 11. 文章構成の型を指導するための教材開発 12. 中学生の国語表現力に関する研究 文表現における問題点 13. 芥川龍之介「羅生門」の教材認識と基準授業案 14. 説明の文章を作る行為の指導 15. コンピュータを用いた読書指導 「読書案内」作成の実践 16. 考えるよう追い込む「発問」の条件 対立する発問によって思考力を育てる 17. 説明的な文章の教材認識 中学2年「文化というもの」(木村尚三郎)の場合 18. 中島敦「山月記」 「のだ」に着目して李徴の内面を読む 19. 漢字の習得力を鍛える 計画的・持続的・意欲的 20. 文章構成の「型」を重視した論説文作成の指導 四段型文章の場合 21. 梶井基次郎「檸檬」の教材認識 22. 連携によって情報を創り出す 23. 小学校作文教材の変遷 光村図書発行昭和36年版・55年版国語教科書の場合 24. 初等・中等教育における作文教材の変遷 昭和37年版・47年版・56年版中学校国語教科書の場合 25. 初等・中等教育における作文教材の変遷 表現過程を指導する方法(昭和30年代～50年代) 26. 保育者養成課程における国語表現指導 話し言葉(2分間スピーチ)の場合 27. 保育者養成課程における国語表現指導 連絡帳の書き方を指導するための教材開発 28. 「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」に関する漢字調査 保育者養成課程における漢字指導の改善を目指して 29. 短期大学生の誤字(平仮名)に関する調査 30. 小論文添削指導の事例 接続助詞「し」が出現した文の場合 31. 小論文添削指導の事例 接続助詞「たり」が出現した文の場合 32. 保育者養成における「言葉遊び」指導力の育成 33. 幼稚園教育要領における領域「言葉」の変遷—平成元年第2次改訂から29年第5次改訂まで—
<p>学会及び社会 における活動 等</p>	<p>中国四国教育学会 表現学会 岡山国語談話会 岡山大学国語研究会</p>

教員名	尾崎 聡	学位	文学修士	職名	教授
-----	------	----	------	----	----

担当科目	人間関係(保育内容)、ライフステージと生活課題、青少年問題と社会、保育実習指導ⅠⅡ、児童文化倫理学、卒業予備研究(B)、卒業研究(A)(B)
------	--

専門分野	哲学	
最終学歴	昭和 61 年 3 月	岡山大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻修了
これまでの主な経歴	昭和 62 年 11 月 平成元年 4 月 平成 8 年 4 月 平成 12 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 14 年 4 月 平成 18 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 29 年 4 月	岡山女子短期大学非常勤講師（平成元年 3 月まで） 岡山女子短期大学講師（平成 8 年 3 月まで） 岡山女子短期大学（平成 12 年 4 月岡山短期大学に校名変更）助教授（平成 14 年 3 月まで） 島根県立大学非常勤講師（民俗文化論 担当）（現在に至る） 川崎医療短期大学非常勤講師（文化人類学 担当）（現在に至る） 倉敷芸術科学大学非常勤講師（生活と文化 担当）（平成 16 年 3 月まで） 岡山学院大学人間生活学部生活情報コミュニケーション学科（平成 16 年 4 月人間情報学科に名称変更）助教授（平成 18 年 3 月まで） 岡山学院大学人間生活学部人間情報学科教授（平成 19 年 3 月まで） 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科教授（平成 24 年 3 月まで） 岡山短期大学幼児教育学科教授（現在に至る） 岡山短期大学幼児教育学科 主任教授（現在に至る）
これまでの主な研究業績	<p>（著書）</p> <ol style="list-style-type: none"> 『建部町史 民俗編』 『美作の護法祭』 『上齋原村史 民俗編』 『牛窓町史 民俗編』 『長船町史 民俗編』 『祭礼行事 第 3 6 巻 岡山県』 『倉敷市史 8（自然・風土・民俗）』 『金光町史 民俗編』 『井原市史・民俗編』 『金光町史 本編』 『奥津町の民俗』 『井原市史第 1 巻通史編』 『岡山県の会陽の習俗』 岡山県の歴史シリーズ 図説倉敷・総社の歴史 年中行事大辞典 「Made in KOJIMA」第 1 章「児島の歴史」 <p>（学術論文）</p> <p>民俗学・人文科学方法論関係</p> <ol style="list-style-type: none"> ディルタイの精神科学における「意味(Sinn)」「意義(Bedeutung)」のカテゴリーの成立 ディルタイの精神科学方法論—「理解」概念の発展— 人生設計の学の体系構築に向けて—報告その① ライフヒストリーについて— ディルタイ解釈学的内的成立過程 岡山城石垣の構築諸年代 日本倫理における神と仏—神仏習合における日本の人間関係— 写真で見る岡山の民俗「シシ垣と防塁」(付) 高屋城付近の鳥瞰図 戦乱の世をいかに戦ったか(付) 匠ヶ城縄張り図 「岡山の中世石塔の特色と民俗学的諸問題」—小米石・豊島石の異形石塔、和泉砂岩の一石五輪、花崗岩の畿内式石塔をめぐって— 「現代倫理の諸問題と倫理学講義（古典倫理から現代倫理へ）」その①比較歴史民族学的視点から生命倫理を考察する 「現代倫理の諸問題と倫理学講義 その②」映像人類学的考察の試み：ミッシェル・フーコー『狂気の歴史』『監獄の誕生』の世界をフランシス・コッポラ版『ドラキュラ』（原作 B・ストーカー）に見出す 「歴史的・民俗的景観図作成の試み」—中国山地最奥部の谷筋に見る中世的生活の痕跡（苦田ダム水没地区調査から）—（付）苦田ダム水没地区歴史的・民俗的景観図 古石塔の立つ光景（古墓地、家系伝承、先祖顕彰）～歴史的民俗的景観図作成の試み その②～ 「土居」考～歴史的・民俗的景観図作成の試み その③～ 備中高松合戦前哨戦における秀吉の陣城「鍛冶屋山城」—伝承と軍記録と遺構— 「城山」について～歴史的・民俗的景観図作成の試み その④～ 	

	<p>17. 城郭研究及び軍記研究から見た備中忍山城合戦と合戦場の諸城 - (附) 忍山城に相対する陣城「信倉城」の縄張図下書き (光畑克己氏遺作)</p> <p>18. 土居の景観 (土居の伝承と地中から出現した土居) ~歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑤~ 岡山学院大学・岡山短期大学紀要</p> <p>19. 井原市の中世山城</p> <p>20. 尼子勢力掃討戦における毛利氏の城郭に関する一考察 ~備中高屋城 (岡山県井原市) および高屋城合戦 (永禄 12 年) を例に~</p> <p>21. 備中井原の土居について一言説と実在性一 (~歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑥~)</p> <p>22. 「歴史的・民俗的景観を記述することの人間存在論的意義について、苫田ダム水没地区を事例に) ~歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑦~」</p> <p>23. 地域アイデンティティ創出と伝説的世界の時空間 ~北条早雲の里の景観~ (歴史的・民俗的景観図作成報告 その①)</p> <p>24. 新『幼稚園教育要領』における領域「人間関係」その①~対象について (改訂の歴史から)</p> <p>25. 新『幼稚園教育要領』における領域「人間関係」その②指導法について (遊びの場面の言葉がけ等から)</p>
学会及び社会における活動等	<p>岡山大学哲学・倫理学会会員 (現在に至る)</p> <p>岡山民俗学会会員 (現在に至る)</p> <p>同学会理事 (平成 16 年 4 月~現在に至る)、同学会誌 編集委員 (平成 9 年 4 月~現在に至る)</p> <p>日本宗教民俗学会会員 (現在に至る)</p> <p>岡山大学日本思想史研究会会員 (現在に至る)</p> <p>日本幼少児健康教育学会会員 (現在に至る)</p> <p>倉敷市市民講座において講師として奉仕活動</p> <p>岡山民俗学会理事 (現在に至る)</p> <p>倉敷市立天城幼稚園学校評議員 (現在に至る)</p> <p>倉敷市文化財保護審議会委員 (現在に至る)</p> <p>倉敷市文化財保護審議会会長 (現在に至る)</p>

教員名	濱田佐保子	学位	文学修士	職名	教授
-----	-------	----	------	----	----

担当科目	英語(A)(B)、保育実習指導Ⅰ、教養演習、卒業予備研究(B)、卒業研究(A)(B)	
専門分野	英語	
最終学歴	昭和 55 年 3 月	京都女子大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了
これまでの主な経歴	昭和 55 年 4 月	光華高等学校非常勤講師 (英語) (昭和 58 年 3 月まで)
	昭和 56 年 4 月	追手門学院大学非常勤講師 (英語) (平成 2 年 3 月まで)
	昭和 59 年 4 月	京都女子大学非常勤講師 (英語) (平成 14 年 3 月まで)
	昭和 61 年 7 月	朝日カルチャーセンター (京都) 講師 (英会話) (平成 2 年 3 月まで)
	昭和 62 年 10 月	大阪市立大学非常勤講師 (英語) (平成 2 年 4 月~平成 3 年 3 月を除く。平成 6 年 3 月まで)
	平成 2 年 4 月	聖隷学園聖泉短期大学専任講師 (リーディング、英文法、英検英語、英米文学研究、米文学史、教科法英語、LL 演習、海外研修、英語基礎セミナー、英語専門セミナー) (平成 8 年 3 月まで) (平成 4 年 4 月聖泉短期大学に名称変更)
	平成 2 年 10 月	京都大学非常勤講師 (英語) (平成 14 年 3 月まで)
	平成 4 年 8 月	大学設置審議会の教員組織審査京都女子大学家政学部生活造形学科非常勤講師 (英語)
	平成 8 年 4 月	聖泉短期大学助教授 (リーディング、LL 演習、海外研修、英語基礎セミナー、英語専門セミナー、メディア研究、英語、Reading/Writing, Test Taking Method, Structure) (平成 13 年 3 月まで)
	平成 8 年 8 月	大学設置審議会の教員組織審査聖泉短期大学介護福祉学科兼任、助教授 (英語)
平成 13 年 4 月	聖泉短期大学特別任用教育職員助教授 (Reading/Writing, Business English, Test Taking Method, 英語専門セミナー) (平成 14 年 3 月まで)	
平成 13 年 9 月	大学設置・学校法人審議会の教員資格審査岡山学院大学人間生活学部生	

	平成 14 年 4 月	活情報コミュニケーション学科教授 (英語コミュニケーション演習 Reading/Writing、卒業研究)
	平成 25 年 4 月	岡山学院大学教授(英語コミュニケーション演習 Reading/Writing、英語コミュニケーション演習 Listening/Speaking、卒業研究、英語 I~VI、比較文化論) (平成 25 年 3 月まで) 岡山短期大学幼児教育学科 教授
これまでの主な研究業績	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Selected Poems of Emily Dickinson 2. 『ことば・意味・かたち』 3. Dynamic Reading 4. 『新・アメリカ研究入門』 5. Words to the World 6. An Emily Dickinson Encyclopedia 7. Different Countries, Different Ways 8. Controversial Issues: Write Your Opinion at Your Risk 9. Cyber English: The Computer is Mightier than the Sword 10. 『未来へのヴィジョン——英米文学の視点から——』 11. 『Summer Breeze～ハワイの風～：観光英語教本』 13. 『文学とサイエンス——英米文学の視点から——』 14. 『エミリー・ディキンソンの詩の世界』 15. 『文学と戦争・英米文学の視点から』 16. 『私の好きなエミリー・ディキンソンの詩』 17. 『超自然 英米文学の視点から』 <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “Legal Imagery in Emily Dickinson’s Poems” 査読付 2. “Significance of Emily Dickinson’s Fascicles: Her view of death and immortality in fascicles 1-8” 査読付 3. “A Vast Expanse at Sunset: Emily Dickinson’s Poems” 査読付 4. “Time in Dickinson’s Poems: Her Strategies for Approaching Eternity” 査読付 5. “Emily Dickinson’s circle Imagery: Searching for Heaven” 査読付 6. “Emily Dickinson’s ‘Conscious Ears’ ” 査読付 7. “So slight a film—A Commentary on Emily Dickinson’s Poetics” 査読付き 8. “Emily Dickinson’s Bee Imagery:—Dream and Reality 査読付き 	
学会及び社会における活動等	<p>日本英文学会会員 (昭和 55 年 4 月から)</p> <p>日本アメリカ文学会会員 (昭和 55 年 4 月から)</p> <p>日本エミリー・ディキンソン学会会員 (昭和 55 年 4 月から)</p> <p>(昭和 62 年 4 月～平成 12 年 5 月：運営委員) (平成 12 年 6 月～現在：理事) (平成 12 年 6 月～平成 14 年 5 月：事務局長) (平成 14 年 6 月～平成 20 年 5 月：会計) (平成 23 年 6 月～現在：会計監査) (平成 29 年 6 月～現在：副会長)</p> <p>人文学会会員 (平成 2 年 4 月入会、平成 6 年 3 月脱退、平成 19 年 4 月再入会)</p> <p>大学英語教育学会会員 (平成 2 年 4 月から)</p> <p>(平成 3 年 4 月～平成 6 年 3 月：関西支部会計監査)</p> <p>(平成 7 年 4 月～平成 14 年 3 月：関西支部研究企画委員)</p> <p>(平成 16 年 9 月～平成 19 年 9 月：中国・四国支部授業学研究委員会委員)</p> <p>エミリー・ディキンソン国際学会 (平成 17 年 4 月から Emily Dickinson International Society) 会員</p>	

教員名	大賀恵子	学位	修士 (教育学) 特別支援学校教諭二種免許状	職名	准教授
-----	------	----	---------------------------	----	-----

担当科目	国語、社会教育演習 (教育相談演習)、保育実習指導 I 保育実習指導 II、発達心理学 I、相談援助、卒業研究 (A)、卒業予備研究 (B)、卒業研究 (B)	
専門分野	教育心理学 (自律訓練法)、教育学、発達心理学	
最終学歴	平成 20 年 3 月 平成 24 年 3 月	岡山大学大学院教育学研究科学校教育臨床専攻修了 武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科博士課程後期満期退学

これまでの主な経歴	昭和 61 年 5 月 昭和 61 年 8 月 昭和 62 年 10 月 昭和 63 年 4 月 平成 28 年 4 月 平成 31 年 4 月	倉敷翠松高等学校常勤講師国語（～S61.7） 倉敷高等学校常勤講師国語（S62.8） 倉敷市立多津美中学校常勤講師 数学（～S63.3） 倉敷高等学校教諭 国語（数学）（～H28.3） 岡山短期大学講師（～H31.3） 岡山短期大学准教授
これまでの主な研究業績	（著書） 1. 「Kotsu2 くんのだイヤモンド」 2. 『『現代保育論』現代保育内容研究シリーズ 1』 （学術論文等） 1. 「自律訓練法の指導回数の違いが学級集団に及ぼす影響」 2. 「自律訓練法の指導回数の違いが学級集団に及ぼす影響」 3. 「高等学校における攻撃性に及ぼす自律訓練法の効果と実践の必要性」 4. 乳幼児の遊びに対する援助が保育者の資質に及ぼす影響—「こどもといっしょに運動会」を通して 6. 発達段階に応じた教育プログラムの開発と効果に及ぼす影響—教育心理学の領域から— 7. 発達障害における早期発見と保育者の支援に関する一考察—事例と課題— 8. 「触覚が乳幼児の発達段階に及ぼす影響—心地よさの観点による検証—」	

教員名	都田修兵	学位	修士（教育学）	職名	講師
-----	------	----	---------	----	----

担当科目	保育者論、教育原理、教育制度論、保育原理Ⅱ事前事後、卒業研究(A) 保育原理Ⅰ、教師論、教職実践演習（幼稚園）、卒業予備研究(B)、卒業研究(B) 事前・事後、特別活動（教職）	
専門分野	教育学	
最終学歴	平成 27 年 3 月	岡山大学大学院教育学研究科学校教育学専攻（修士課程）修了
これまでの主な経歴	平成 27 年 5 月 平成 27 年 9 月 平成 28 年 4 月 平成 28 年 10 月 平成 29 年 4 月 平成 30 年 4 月	国立大学法人広島大学非常勤職員 広島大学大学院教育学研究科ティーチング・アシスタント（TA）（平成 28 年 2 月まで） 広島県立三次看護専門学校非常勤講師（「論理的思考」を担当）（平成 28 年 3 月まで） 国立大学法人広島大学非常勤職員 広島大学大学院教育学研究科オリファイド・ティーチング・アシスタント（QTA）（平成 29 年 2 月まで） 広島県立三次看護専門学校非常勤講師（「教育学」を担当）（平成 29 年 1 月まで） 岡山短期大学幼児教育学科助教 岡山短期大学幼児教育学科講師
これまでの主な研究業績	（学術論文等） 1. A Study of Acceptance of Emerson's Thought in Japan: Focusing on Tokoku Kitamura's Emerson 2. R. W. エマソンの神秘主義思想とその教育的意義 3. エマソンの超越主義的教育思想における神秘主義の意味 4. エマソンの超越主義的教育思想のもつ宗教的特質 5. R. W. エマソンの初期教育思想に関する研究—牧師の二重性と教育的空間の二重性に着目して— 6. 大学教員の授業観に関する研究—教職科目の授業分析とインタビュー分析を通じて— 7. 道徳授業の難点を大学における授業でどのように考えるか 8. 新幼稚園教育要領における「道徳性・規範意識」に関する考察 （著作） 1. 生き方を耕す小学校の道徳授業 2. 「先生の先生になる」ための教育プログラムの現状と課題 （教育実践記録等） 1. 「教職」の社会的意義と「自己信頼」による「教育的相互尊重」 2. 教員の職務内容と「チーム学校」の関係に関する研究 3. 教育方法及び技術の歴史的展開と教育方法としてのアクティブラーニング 4. 年齢別保育指導案の作成と評価—「地藏鬼」を事例として— 5. 保育指導案の書き方と保育現場における評価	

	6. 日本における教育改革と教育制度としての幼児期の教育 7. 学校における道徳教育の教育内容・教育方法再考（共著） 8. 学校と地域、教育行政の協働による学校安全の構築に関する研究 9. 「特別活動」と「総合的学習の時間」の目標と内容の関係 10. 自然を意識した道徳授業の理論的基盤に関する研究序説—エマソンの超越主義思想と自然観を手がかりとして—
学会及び社会における活動等	教育哲学会、教育思想史学会、日本道徳教育学会、日本道徳教育方法学会、日本デューイ学会、日本ペスタロッチー・フレーベル学会、イギリス理想主義学会、中国四国教育学会、くらしき幼児教育ネットワーク

その他非常勤講師

近 勝彦 大阪市立大学大学院 教授 法学修士（広島大学）

西谷光正 現職なし 教育学修士（岡山大学大学院） 小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許（保健体育）、高等学校教諭一種免許（保健体育）

中西美恵子 関西福祉大学看護学部看護学科特任教授 修士（教育学）（岡山大学）
小学校教諭専修免許

三 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること。

授業科目ごとの授業の方法及び内容は本学ウェブサイトのシラバス参照 (<https://owc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2019/03/H31ShokuSyllabus.pdf>)。

4年間の授業計画

免許法施行規則に定める科目又は科目区分	授業科目	必修	選択	計	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
栄養に係る教育に関する科目	学校栄養指導論Ⅰ	2		2					2			
	学校栄養指導論Ⅱ	2		2						2		
	小計	4	0	4	0	0	0	0	2	2	0	0
第6条の6に定める科目	日本国憲法	2		2			2					
	体育	体育理論	1		1	1						
		体育実技	1		1		2					
	外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	2		2	2						
		英語Ⅱ		2	2		2					
	情報機器の操作	情報リテラシーⅠ	2		2	2						
情報リテラシーⅡ			2	2		2						
	小計	8	4	12	5	6	2	0	0	0	0	0
栄養・教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	2		2			2				
		教師論	2		2			2				
		教育制度論	1		1					1		
		教育心理学	2		2			2				
		特別支援の方法と理解	1		1					1		
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育課程論	1		1					1		
		道徳・特別活動・総合的な学習の時間	2		2						2	
		教育の方法及び技術(A)	1		1					1		
		教育の方法及び技術(B)		1	1						1	
	教育実践に関する科目	生徒指導論	2		2						2	
		教育相談	2		2					2		
		事前・事後指導	1		1						1	
		栄養教育実習	1		1							1
		教職実践演習(栄養教諭)	2		2							2
	小計	20	1	21	0	0	4	2	6	6	1	2
	合計	32	5	37	5	6	6	2	8	8	1	2

◎基礎資格—学士の学位を有すること、かつ、栄養士法第2条第3項の規定により管理栄養士の免許を受けていること又は同法第5条の3第4号の規程により指定された管理栄養士養成施設の課程を修了し、同法第2条第1項の規程により栄養士の免許を受けていること。

栄養教諭一種免許状を取得しようとする者は栄養士免許取得及び管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要な栄養士法管理栄養士指定教育分野の専門基礎・専門分野のそれぞれの区分における講義・演習・実験又は実習必修単位(82単位)を修得しなければならない。

四 卒業生の教員免許状の取得の状況に関すること。(平成30年度)

卒業生数(男・女)	4	22
栄養教諭一種免許状取得者数(男・女)	0	4

五 卒業生の教員への就職の状況に関すること。(平成30年度)

教員就職者数 0人

六 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること。

栄養教育実習報告会の実施

実習終了後、学科教員及び3・4年次生全員に対して、栄養教育実習報告会を実施している。

その内容は、

- ① 実習学校名、学級数、実習学年
- ② 実習中に気を付けた事項
- ③ 研究授業の指導案について（手直し／経過等）
- ④ その他の授業について（給食時間等）
- ⑤ 研究課題について（テーマ・目的等）
- ⑥ 参観授業について（科目名・学年・児童の様子等）
- ⑦ 実習全体を通しての反省・感想

について実習生一人ひとりが発表用の資料を準備して学会発表形式で発表を行うものである。

実習生は、事後指導で、実習担当教員の指導の下、実習の学習成果を十分に整理して発表に臨み、発表後は学科教員、参加学生から質問を受けることを念頭に、質問に対して適切な応答ができるよう十分な準備をするので、栄養教育実習全般にわたる自己評価と、入職までの課題の確認が一層深まる。